

榎寺出張所新装オープン



JA筑紫は9月5日、太宰府市通古賀でJA筑紫榎寺出張所オープン式を行いました。

当日は、JA理事や地元評議員、関係業者ら15名が参加。テープカットを行い、新しい店舗で営業を始めました。

新店舗は、2022年4月から工事を開始。コンパクトかつ、地域に溶け込む店舗をコンセプトに明るく温かい空間を演出したデザインになっています。

白水清博組合長は「地域の多くの方々にも愛される店舗になるべく、役職員一同心を込めて運営していきます」と挨拶しました。

献穀田で抜穂祭・那珂川良質米生産支援協議会



2022年度宮中行事「新嘗祭（にいなめさい）」に献上する献穀米の「抜穂祭」が9月7日、那珂川市埋金の上野孝雄さんの献穀田で開かれました。

JA筑紫管内では20年ぶりの献上となります。JAなど関係機関で構成する那珂川良質米生産支援協議会が主催し、約34名が出席しました。

上野さんや刈乙女（かりめ）として地元の小学生らが、実った「夢つくし」の稲穂と粟「陸栄」を丁寧に刈取りました。

献穀者の上野さんは「台風などの心配もあったが無事に収穫を迎える事ができました。皆さんの協力に感謝したいです」と話しました。

収穫した米と粟は、10月末頃に皇室に献上される予定です。

みんなで楽しむ・女性部



JA筑紫二日市支店女性部は9月9日、JA筑紫二日市支店でいこいの広場を開催しました。同地区内のおおむね70歳以上の女性と女性部役員ら18名が参加しました。

この活動は、地域の高齢者の方々に健康で生きがいのある生活を送っていただきたいという思いのもと取り組んでいます。

今回は、同女性部員の木村美紀さんに牛乳パックを再利用して作る箸置き作りを教えてもらい、楽しみました。

さらに、各自持参した家の光を見ながら、再利用や節水を含めたSDGsの現状についての読書会も開催。

参加した部員は試行錯誤しながら取り組み、「難しかったけれども、楽しんで参加することができました」と話しました。

「夢つくし」収穫



ＪＡ筑紫管内では、「夢つくし」の収穫時期を迎え、9月4日から荷受けが始まりました。

ＪＡに出荷される水稻の作付面積は「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」3品種で約390ha。うち「夢つくし」の作付面積は約112haを占めます。

今年の生育は、平年より21日早い梅雨明けで、気温が高く日照時間も長かったため、おおむね順調です。

ＪＡの担当職員は「引き続き病害虫に注意しながら、刈り取り作業は安全第一に行ってほしいです」と話しました。

ヨガ教室で気分爽快



ＪＡ筑紫女性部・フレッシュミズ合同学級は9月14日、筑紫野市のＪＡ本店でヨガ教室を開き、女性部員10名が参加しました。

今回は、作業療法士の資格を持つヨガインストラクターのかほりさんを講師に招き、自宅でできるヨガのポーズに挑戦。講師は実演しながら、腰痛予防に効く呼吸法や体の痛みを改善するヨガのポイントを説明しました。

部員はヨガマットの上で、さまざまなポーズで体を伸ばし、姿勢やバランスを整えました。

参加した古賀貴子委員長は「心も体もリフレッシュでき、楽しい時間を過ごせました」と笑顔で話しました。

ＪＡ筑紫女性部では今後も、地域の女性が気軽に参加できるようにPR活動に努め、魅力ある企画で次世代の部員拡大を目指します。

表彰状と記念品贈る・敬老会



デイサービスセンターＪＡ筑紫アネシスは、9月16日と17日の2日間、利用者の長寿を祝う「敬老会」を開き、利用者54名が参加しました。賀寿を迎えた11人に、ＪＡから表彰状と記念品を贈りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部からのボランティアは迎えず、イントロ当てクイズやアネシス職員が歌とダンスを披露し、賀寿を祝いました。

同デイサービスセンターの古賀貴博所長は「いつまでも元気に毎日を過ごしてください」と話しました。

地域の安全を見守る



JA筑紫各店舗では9月21日～30日、福岡県の「秋の交通安全県民運動」の一環として、交通事故防止の啓発活動を行いました。

JA御笠支店では期間中、職員が自治会や御笠コミュニティセンター、吉木小学校、御笠郵便局、筑紫野警察署、筑紫交通安全協会などと協力して、登校する児童を見守りました。活動にはJAマスコットキャラクター「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」も参加し、児童は元気に挨拶をし、登校しました。

同コミュニティセンターや同郵便局に交通事故防止に関するのぼり旗を、通学路周辺に同協会の青パト（青色回転灯車両）等を設置。パトカーで通学路周辺を巡回し、安全運転を呼びかけました。

また、同小学校に「夢つくし『交通事故ゼロの願い米（こめ）』」2合入り350袋や交通安全グッズを提供した他、登校してきた児童にチラシを配布しながら交通安全について呼びかけました。

同支店の職員一同は「今後もJA筑紫安全安心みまもり活動を継続し、地域の方々の安全を見守ってまいります」と決意を述べました。

運動は同県や警察、市町村、交通安全協会などで結成する交通事故をなくす福岡県県民運動本部が主催。「子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保」などを重点項目とし、同県内各地域で様々な活動を行っています。

JAはこれまでも地域の防犯活動など積極的に取り組んできました。JAが掲げる「地域の活性化」へ貢献し、地域に必要とされるJAを目指しています。

1等Aランクを目指す・麦出荷者部会



JA筑紫麦出荷者部会は9月26日、筑紫野市のJA本店で、2023年産麦播種前講習会を開きました。11月中旬から始まる麦の播種を前に、生育管理について再確認し、契約数量の必達と1等Aランクを目指します。

研修会は午前と午後の2部制で行い、部会員や普及指導センター、JA全農ふくれん、JA役職員など計43名が参加しました。2022年産麦の生育概況や麦の情勢について説明。参加者は真剣な表情で聞き入り、土づくりや排水、雑草対策などについても再確認しました。

JAの担当職員は「この講習会で生産者の意欲が高まりました。2023年産も高品質な麦を栽培したいです」と意気込みました。

教育ローン成約分を子ども食堂へ寄付



JA筑紫は9月27日、大野城市の認定NPO法人チャイルドケアセンターへ教育ローン成約件数に応じた寄付を行いました。JAの船越勝典専務が、同法人の大谷清美代表理事へJA農産物直売所ゆめ畑商品券（8万円相当）を手渡しました。

JAらしい地域貢献活動として子ども達の成長に貢献したいと、教育ローンの成約件数に応じた同法人への寄付を6年間続けています。今回は、2021年10月1日から22年5月31日までの「教育ローンキャンペーン」の成約80件分。

同法人は、子育てのための情報とネットワークづくりをサポートする団体。JA管内5市の71カ所で、地域で暮らす大人や子どもを対象に、ボランティアが食事の提供や交流する場「子ども食堂」を設けています。

大谷代表理事は「筑紫地区の子ども食堂にJAの取り組みを伝え、商品券を渡したいです」と話しました。

船越専務は「地域貢献活動の一環として始めた寄付が6年目を迎えることができ、大変嬉しいです。将来を支える地域の方々や子ども達のために使っていただきたい」と笑顔で話しました。

みそ作りに挑戦・女性部



JA筑紫大野城支店女性部は9月29日、JA大野城支店でみそ作りに挑戦しました。当日はJA女性部員20名が参加。

部員は、配付された煮大豆をつぶし、麴を入れ、汗をにじませながら一生懸命に練りました。作った味噌は3カ月間各自の冷蔵庫で寝かし、みそ汁などで味わう予定です。

参加した部員は「簡単にみそ作りができたので、ぜひ自宅でも実践したいです。3カ月後に食べるのが楽しみです」と話しました。